

2018年度就職・採用活動に関する調査(大学等)

速報版（概要）

2019年3月

調査概要

調査目的

就職・採用活動の状況を把握し、今後の就職・採用活動の円滑な実施の検討に資する。

調査主体

文部科学省（就職問題懇談会と協力して実施。）

実施方法

対象：全国の大学、短期大学、高等専門学校 合計1, 178校

方法：調査票の送付

期間：2018年7月4日(水)～8月8日(水)

※8月1日現在の状況を回答

回答率

発送数：1, 178件

有効回答件数：1, 091件

回答率：92.6%

【内訳】

国立大学	100.0%	公立大学	95.7%	私立大学	92.1%
公立短期大学	82.4%	私立短期大学	90.5%		
国立高専	96.1%	公立高専	100.0%	私立高専	100.0%

属性

① 学校種別

調査数	国立大学	公立大学	私立大学	公立短期大学	私立短期大学	国立高専	公立高専	私立高専
1,091	86	88	580	14	268	49	3	3
100%	7.9%	8.1%	53.2%	1.3%	24.6%	4.5%	0.3%	0.3%

② 地域

調査数	北海道・東北	関東(東京以外)	東京	中部	近畿	中国・四国	九州・沖縄
1,091	135	167	173	189	201	109	117
100.0%	12.4%	15.3%	15.9%	17.3%	18.4%	10.0%	10.7%

(注)この「確定版」における「大学等」とは、大学、短期大学及び高等専門学校である。

就職問題懇談会「申合せ」の周知状況等

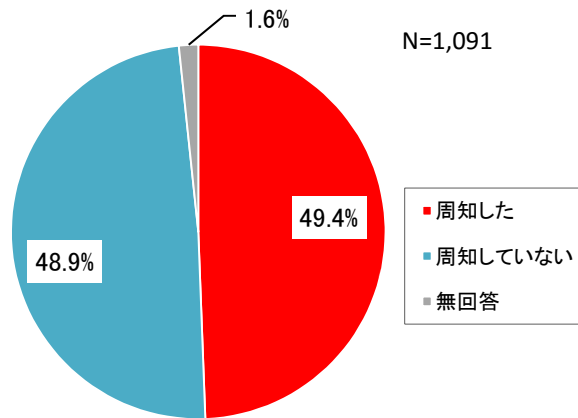
<周知状況>

就職問題懇談会「申合せ」を企業へ周知した大学等
49.4% (+0.2ポイント)

<周知しなかった理由>

「既に就職問題懇談会や政府から企業へ周知しているため」
53.9% (▲1.9ポイント)
「就職先が公的機関、医療機関、幼稚園、保育園などの企業
以外であるため必要がない」29.6% (+5.3ポイント)

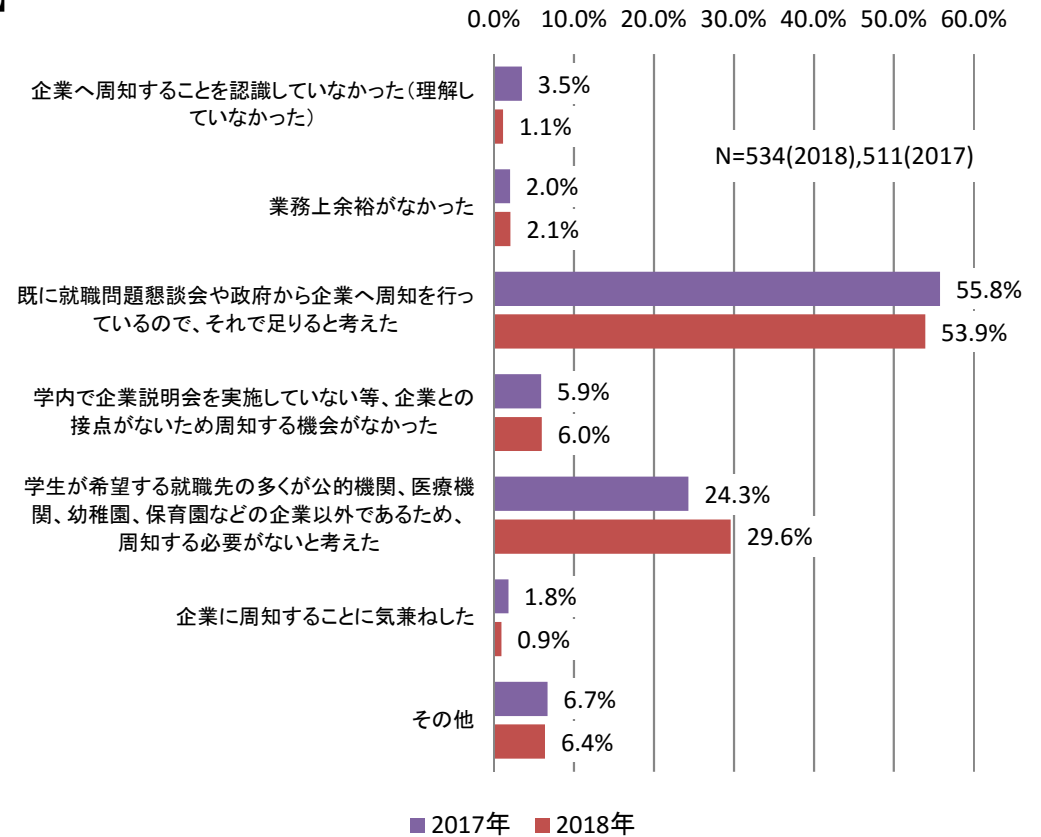
【「申合せ」の就職活動時期の遵守や学生の学業への配慮の周知】
(単一回答)



<参考:昨年度調査>

周知した49.2% 周知していない49.3%

【周知しなかった理由】(複数回答)



※周知していないと回答した534校に質問

広報活動開始時期（大学等の認識）

○ 企業が広報活動を開始した時期

<最も多い回答>

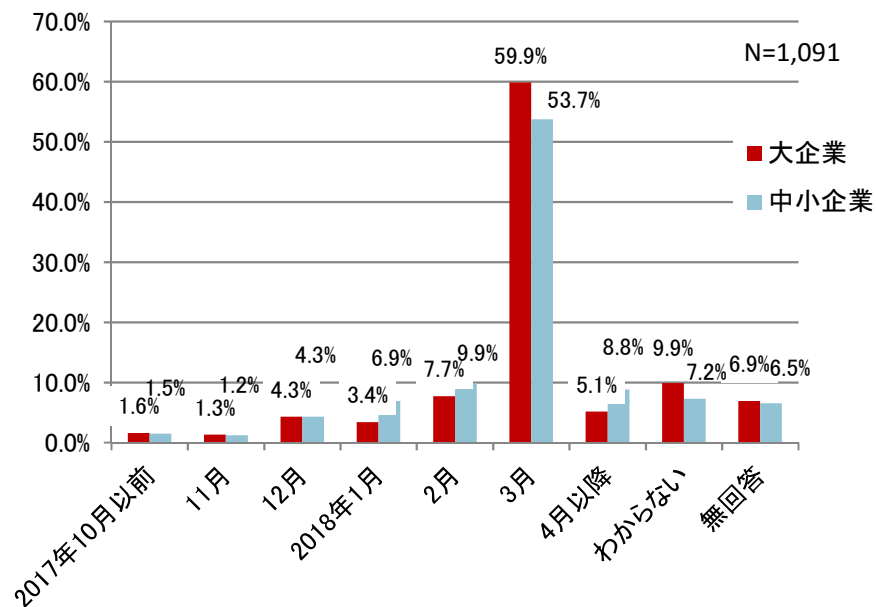
大企業 3月（59.9%）、中小企業 3月（53.7%）

○3月以降に企業が広報活動を行っているとは回答した大学等

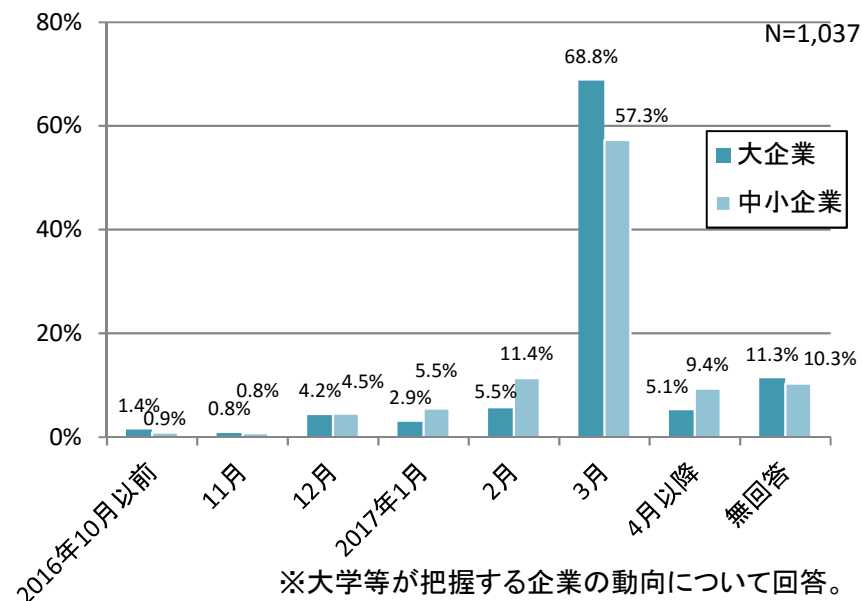
大企業 65.0%（▲8.9ポイント）、中小企業 62.5%（▲4.2ポイント）

【多くの企業が広報活動を開始した時期はいつ頃ですか】(単一回答)

<2018年度>



<2017年度>



採用選考活動開始時期（大学等の認識）

○ 企業が採用選考活動を開始した時期

<最も多い回答>

大企業 4月（23.3%）※3月もほぼ同じ割合。（23.0%）

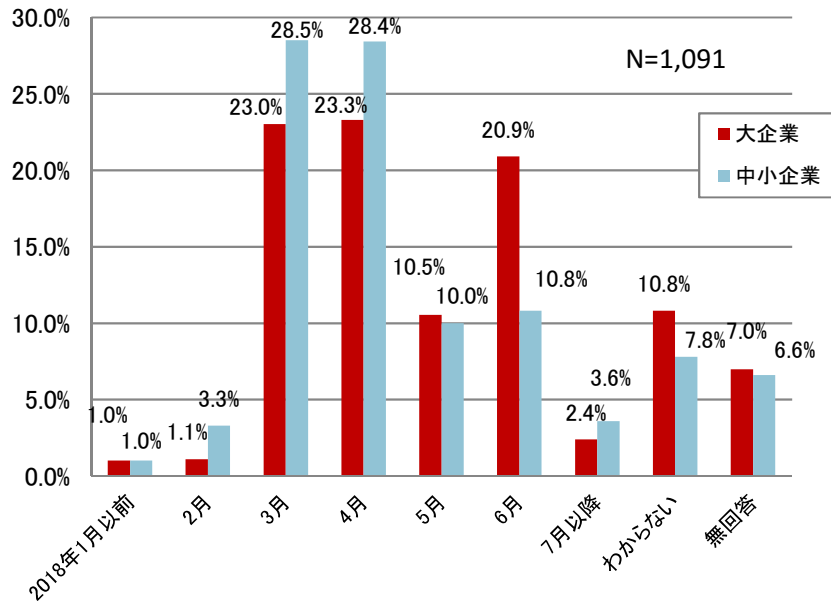
中小企業 3月（28.5%）※4月もほぼ同じ割合。（28.4%）

○ 6月以降に企業が採用選考活動を行っているとは回答した大学等

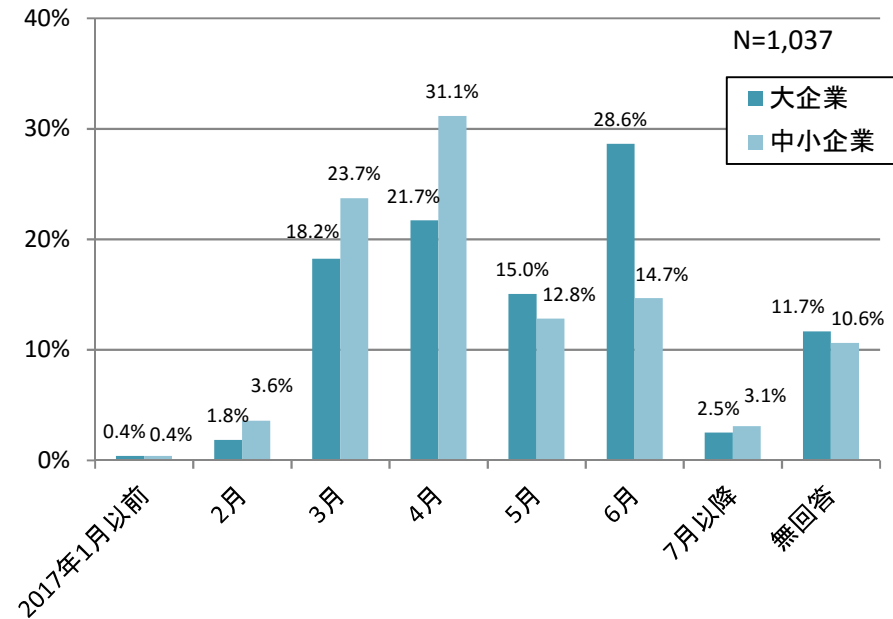
大企業 23.3%（▲7.8ポイント）、中小企業 14.4%（▲3.4ポイント）

【多くの企業が採用選考活動を開始した時期はいつ頃ですか】（単一回答）

<2018年度>



<2017年度>



※大学等が把握する企業の動向について回答。

学生が内々定を得た時期（大学等の認識）

○ 学生が内々定を得た時期

<最も多い回答>

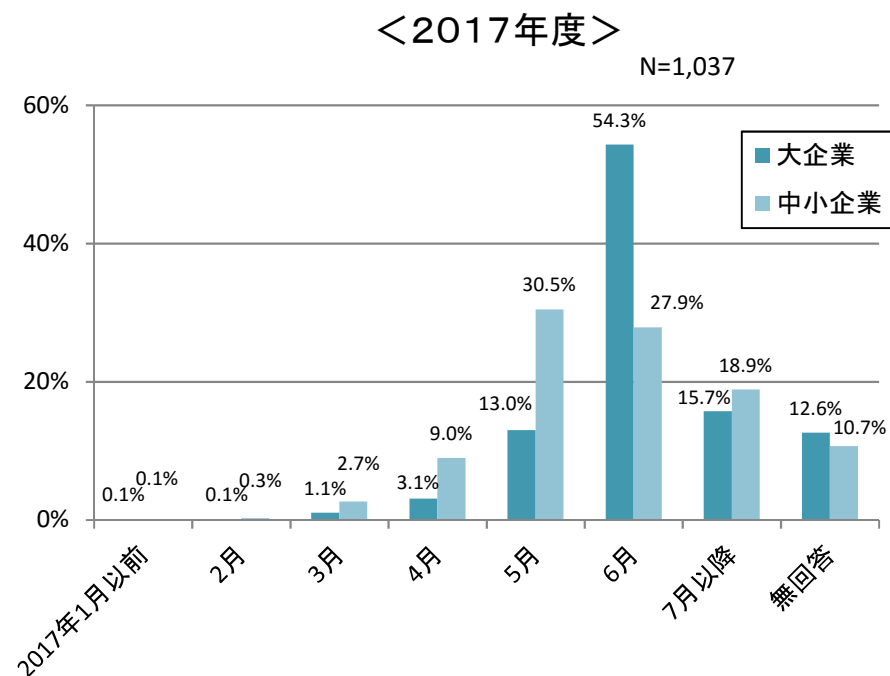
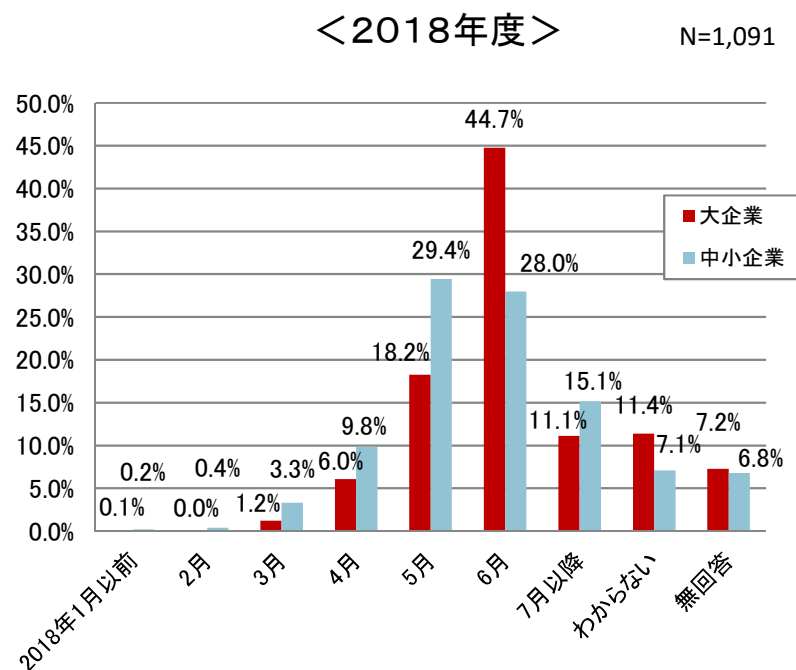
大企業の内々定 6月（44.7%）

中小企業の内々定 5月（29.4.%）※6月もほぼ同じ割合。（28.0%）

○6月以降に学生が内々定を得たと回答した大学等

大企業の内々定 55.8%（▲14.2ポイント）、中小企業の内々定 43.1%（▲3.7ポイント）

【学生が内々定を得た時期】（単一回答）



※大学等が把握する企業の動向について回答。

学生が就職活動を終了した時期（大学等の認識・8月1日時点）

○ 学生が就職活動を終了した時期

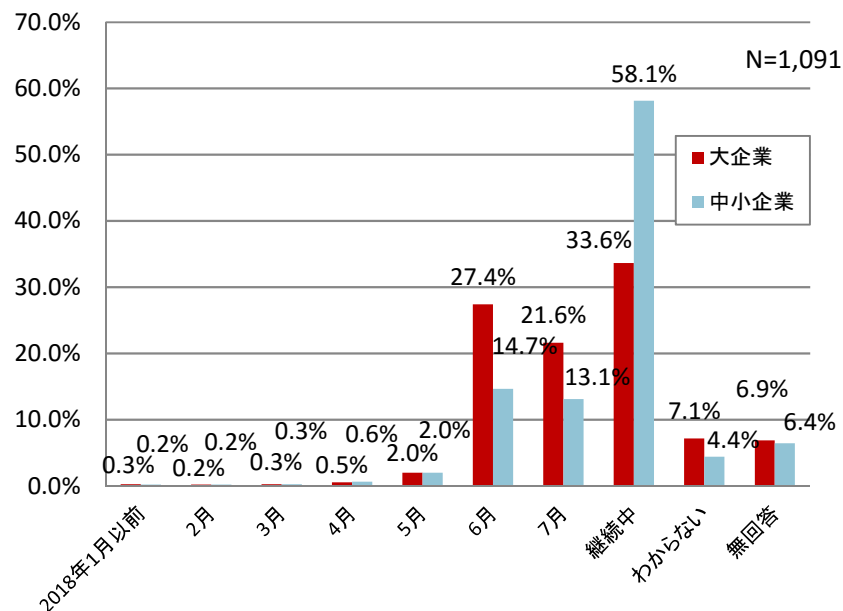
<最も多い回答>

大企業への就職活動 継続中 33.6% (▲3.3ポイント)

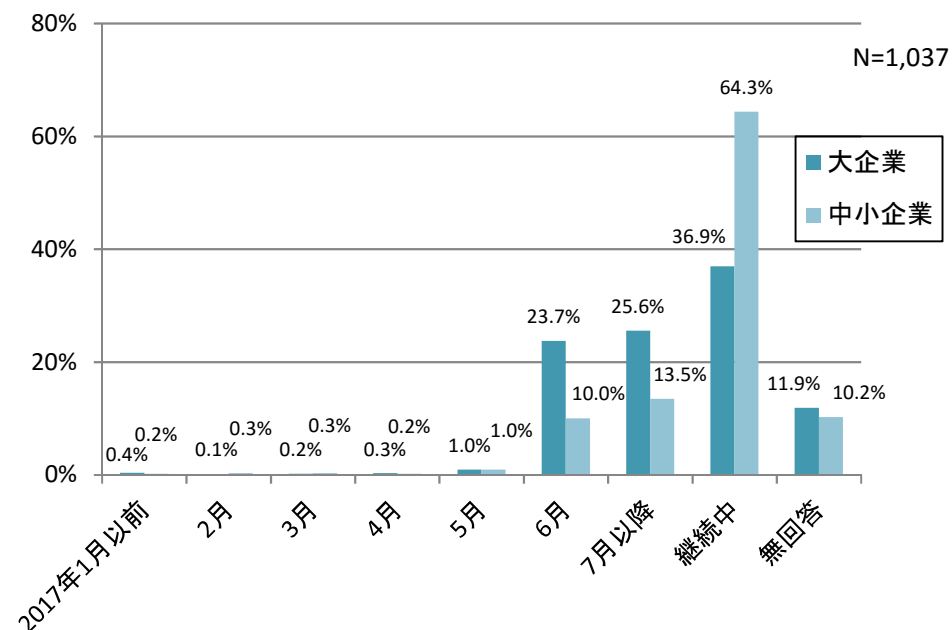
中小企業への就職活動 継続中 58.1% (▲6.2ポイント)

【就職活動を終了した時期】(8月1日現在) (単一回答)

<2018年度>



<2017年度>



※大学等が把握する企業の動向について回答。

就職・採用活動開始時期の後ろ倒しの影響

<良い影響があった項目>

- ・学生が学部3年次の後期試験に落ち着いて取り組むこと。 32.6%
- ・卒業・修了前年度までの、学生の授業やゼミの学修時間の確保 32.4%
- ・卒業・修了前年度までの、学生のインターンシップの参加促進 31.7%
- ・学部3年次の後期授業への出席 31.5%
- ・卒業・修了前年度までの、学生のキャリア教育の時間の確保 26.9%

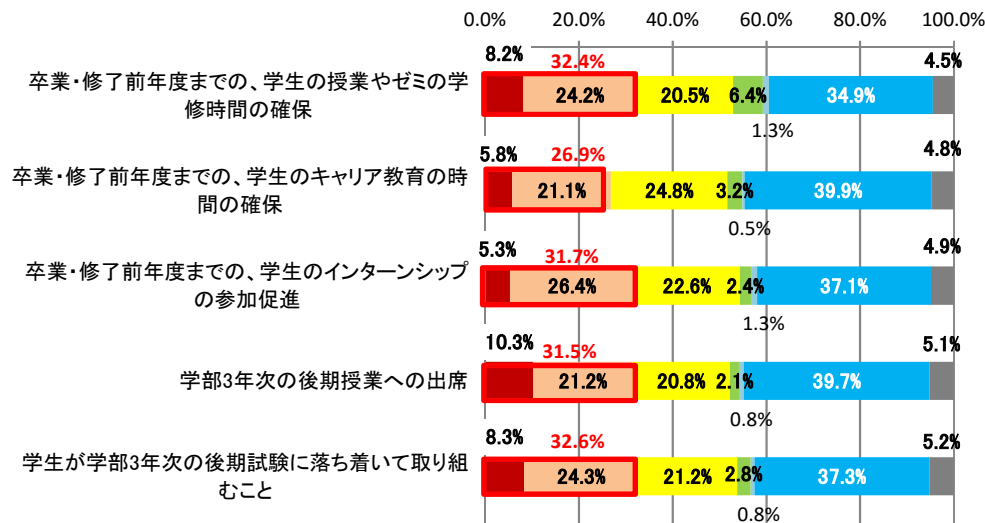
昨年度同様、「良い影響あった」という回答が「悪い影響があった」という回答を大きく上回っている。

※良い影響があったとは「良い影響があった」「どちらかという良い影響があった」の合計

【広報活動開始時期が卒業・修了前年度の3月1日以降となり、就職・採用活動の開始時期の後ろ倒しが続いていることについて、どのような影響がありましたか】(単一回答)

<2018年度>

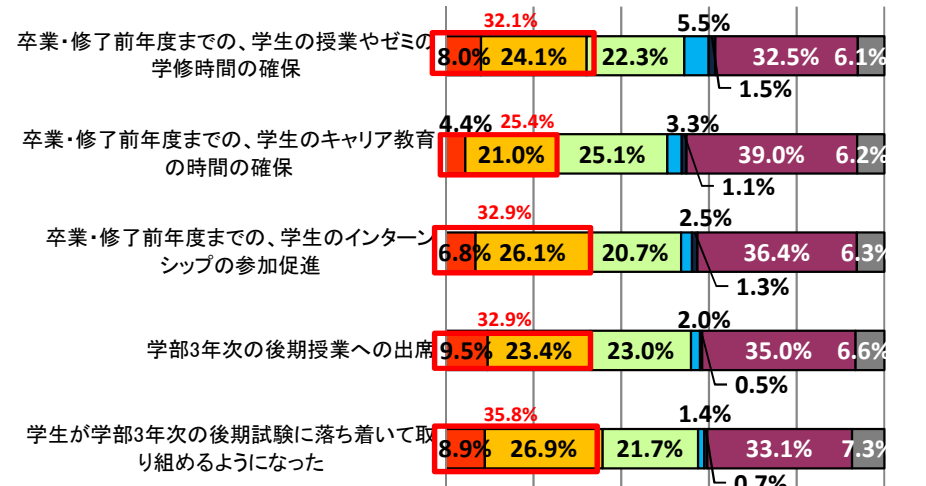
N=1,091



- 良い影響があった
- どちらかという良い影響があった
- 同じくらい
- どちらかという悪い影響があった
- 悪い影響があった
- 影響はなかった

<2017年度>

N=1,037



- 良い影響があった
- どちらかという良い影響があった
- 同じくらい
- どちらかという悪い影響があった
- 悪い影響があった
- 影響はなかった
- 無回答

就職・採用活動時期が同じ時期となったことについて（良い影響）

<良い影響があったと思うこと>

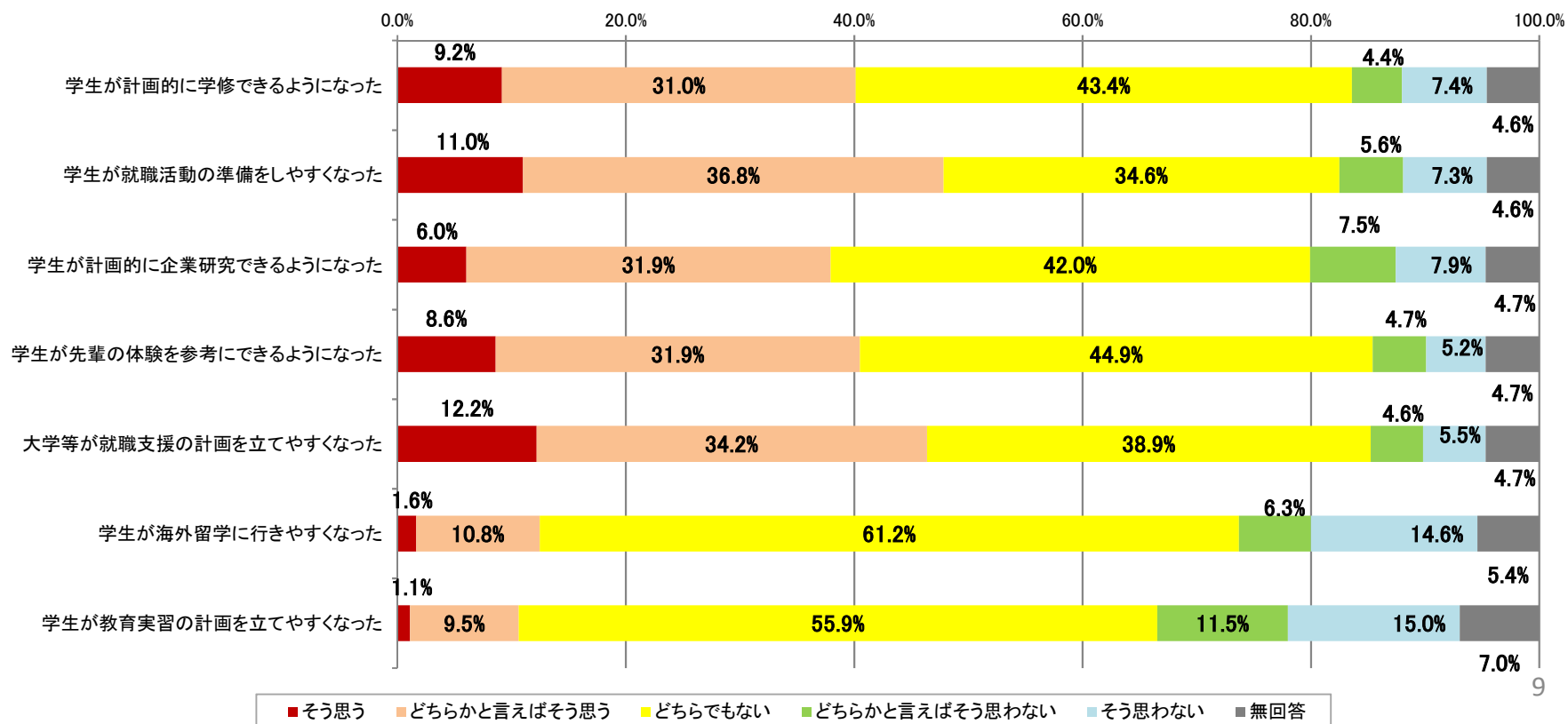
- ・ 学生が就職活動の準備をしやすくなった。 47.8%
- ・ 大学等が就職支援の計画を立てやすくなった。 46.4%
- ・ 学生が先輩の体験を参考にできるようになった。 40.5%

※ 「そう思う」・「どちらかと言えばそう思う」の合計。上位3つ。

「学生が計画的に学修できるようになった。」という回答も40.2%

【就職・採用活動開始時期が昨年度と同じ時期（広報活動3月、採用選考活動6月）に設定されたことについて、良い影響があったこと】
（単一回答）

N=1,091



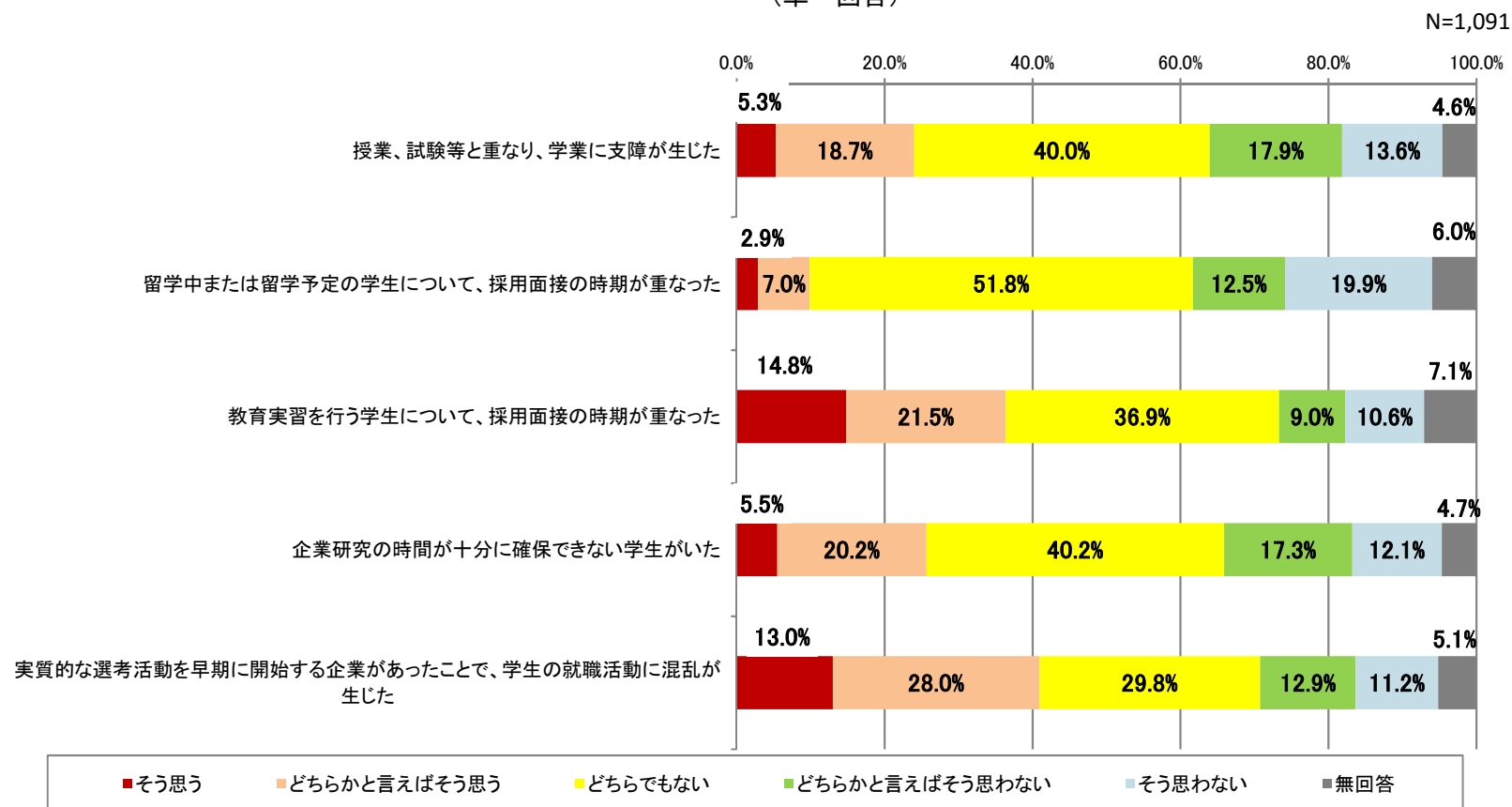
就職・採用活動時期が同じ時期となったことについて（課題）

<課題となったこと>

- ・ 実質的な選考活動を早期に開始する企業があったことで、学生の就職活動に混乱が生じた 41.0%
- ・ 教育実習を行う学生について、採用面接の時期が重なった 36.3%
- ・ 企業研究の時間が十分に確保できない学生がいた 25.7%

※「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」の合計、上位3つ

【就職・採用活動開始時期が昨年度と同じ時期（広報活動3月、採用選考活動6月）に設定されたことについて、課題となったこと】
（単一回答）



留学・教育実習への影響

<留学>

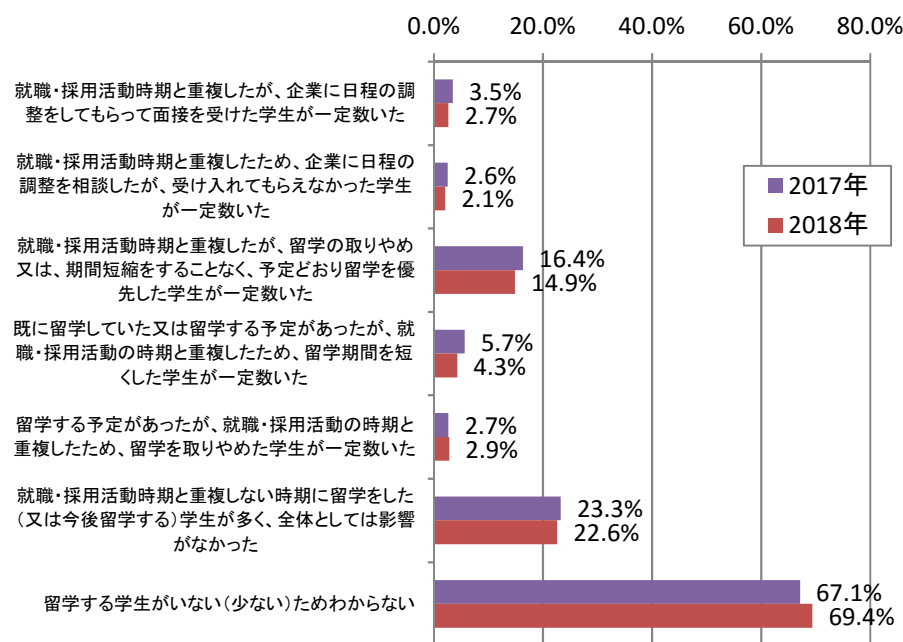
「影響がなかった」(22.6%)、次いで、「取りやめ又は期間短縮をすることなく、予定どおり、留学を優先した学生が一定数いた」(14.9%)という回答が多かった。

<教育実習>

●「予定どおり受講」(30.5%)、「影響がなかった。」(26.3%)、「企業に面接の日程を調整してもらって面接を受けることができた学生が一定数いた。」(22.7%)の順で回答が多かった。

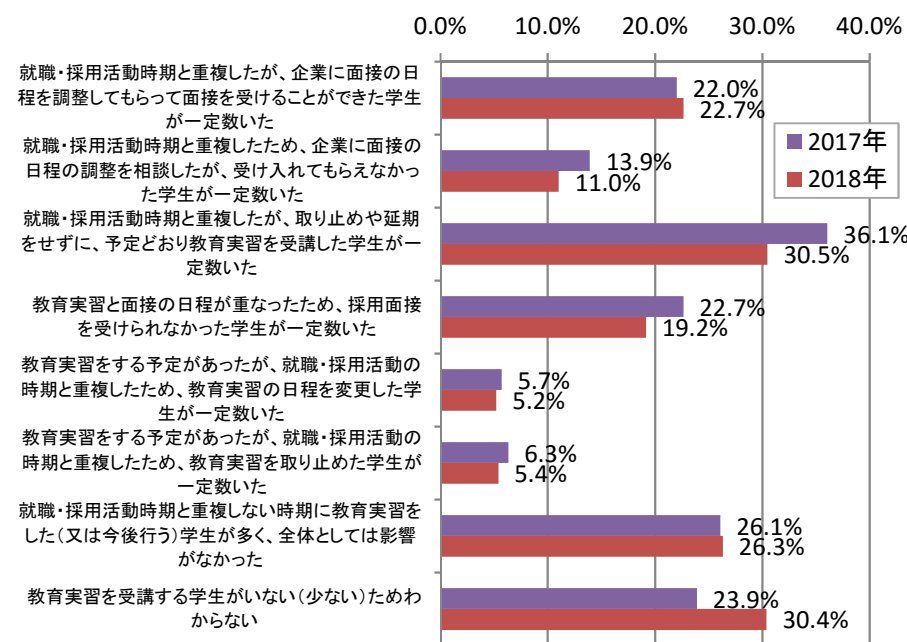
●昨年度と比べて「教育実習と面接の日程が重なったため、採用面接を受けられなかった学生が一定数いた。」が3.5ポイント減少。

【留学経験者への影響】(複数回答)



N=1042(2018),971(2017)
 ※当てはまるものを最大3つまで選択
 ※無回答49校を除外

【教育実習受講者への影響】(複数回答)



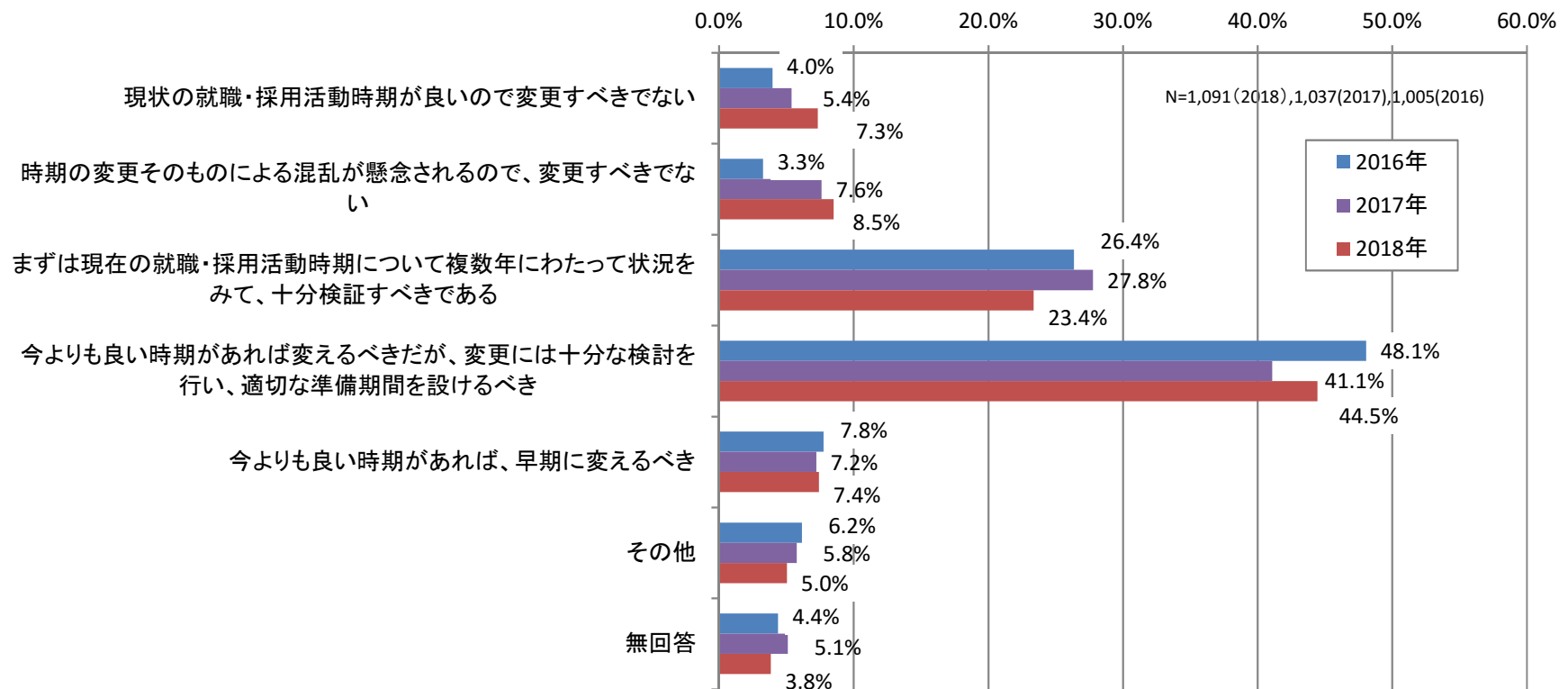
N=1033(2018),962(2017)
 ※当てはまるものを最大3つまで選択
 ※無回答を58校除外

就職・採用活動時期の変更についてどのように考えるか

「今よりも良い時期があれば変えるべきだが、変更には十分な検討を行い、適切な準備期間を設けるべき」が44.5%、

「まずは現在の就職・採用活動について複数年にわたって状況を見て、十分検証すべきである。」が23.4%であり、時期の変更には慎重な検討が必要という意見が多い。

【就職・採用活動開始時期を変更することについてどのように考えていますか】(単一回答)



就職・採用活動における学生に対する企業の配慮

○ 配慮している>配慮していない

「個別の面接日時等の設定に当たり、余裕をもって連絡が行われていた。」など、7項目

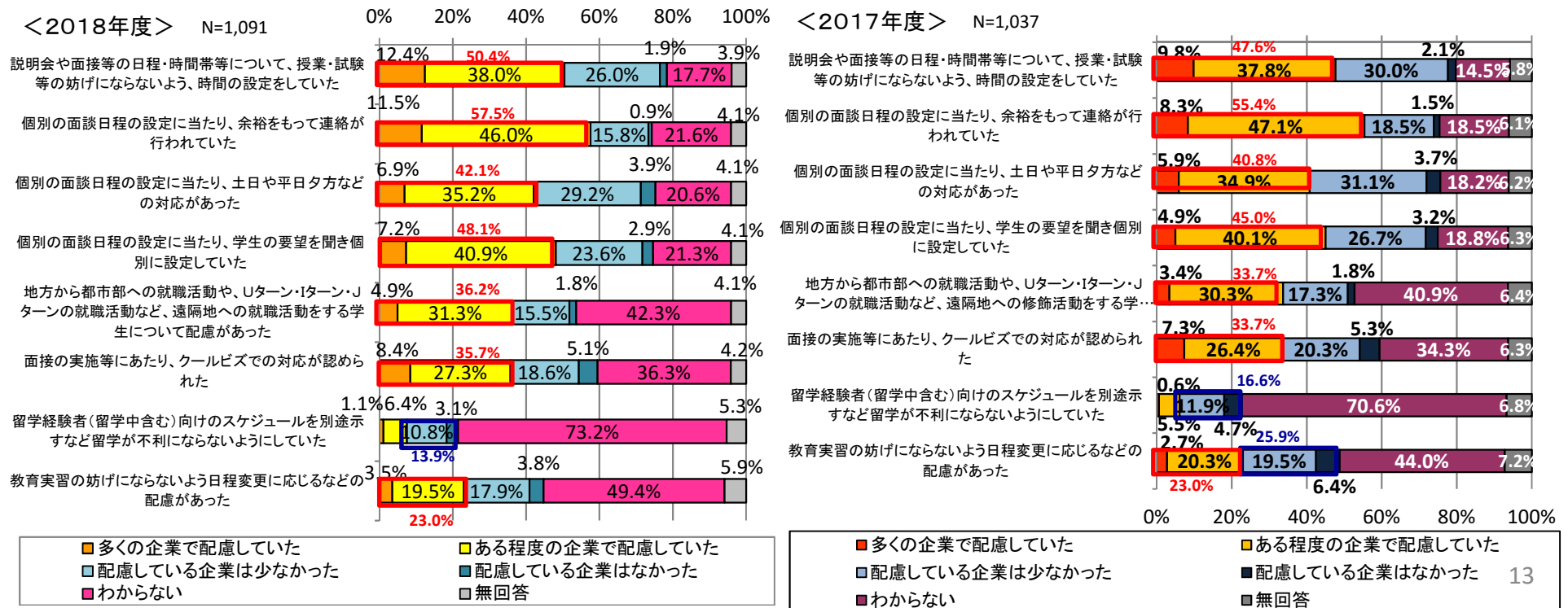
○ 配慮している<配慮していない

「留学経験者向けのスケジュールを別途示すなど留学が不利にならないようにしていた」

昨年度と比べると、ほぼすべての項目で「配慮している」と回答した割合は増えている。
教育実習への配慮については、今年度は「配慮している」が「配慮していない」を上回った。

「配慮している」とは、「多くの企業で配慮していた」「ある程度の企業で配慮していた」の合計。「配慮していない」とは、「配慮していた企業は少なかった」「配慮している企業はなかった」の合計。

【就職・採用活動において企業側は学生に配慮をしていましたか】



就職・採用活動におけるハラスメント的な行為

<大学等への相談有無>

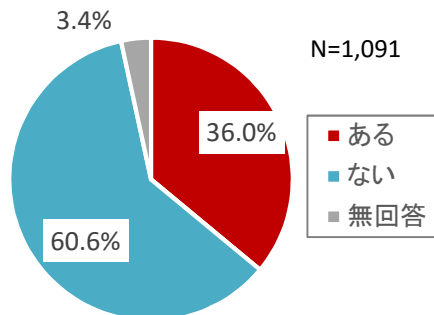
「ある」 36.0% (▲4.1ポイント)

<相談件数>

「5件以下」 46.8% (+3.3ポイント)

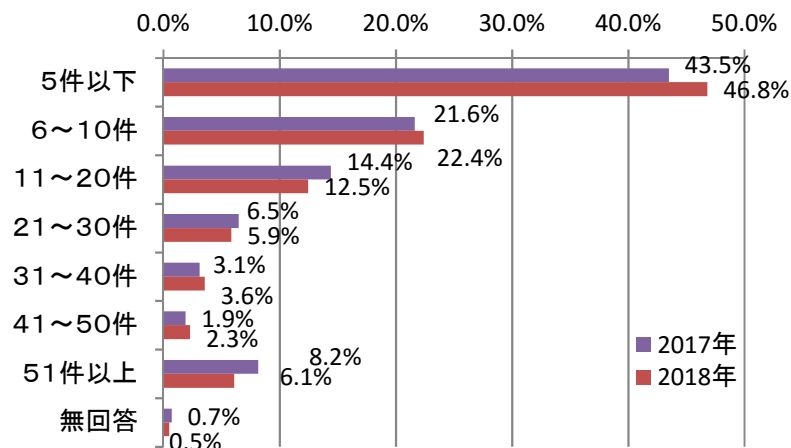
「51件以上」 6.1% (▲2.1ポイント)

【学生の意思に反して他の企業等への就職活動の終了を強要するようなハラスメント的な行為について、相談を受けたことはありましたか。】(単一回答)



【参考:昨年度】ある(40.1%)、ない(55.3%)、無回答(4.6%)

【本年度の相談件数(単一回答)】 N=393(2018), N=416(2017)

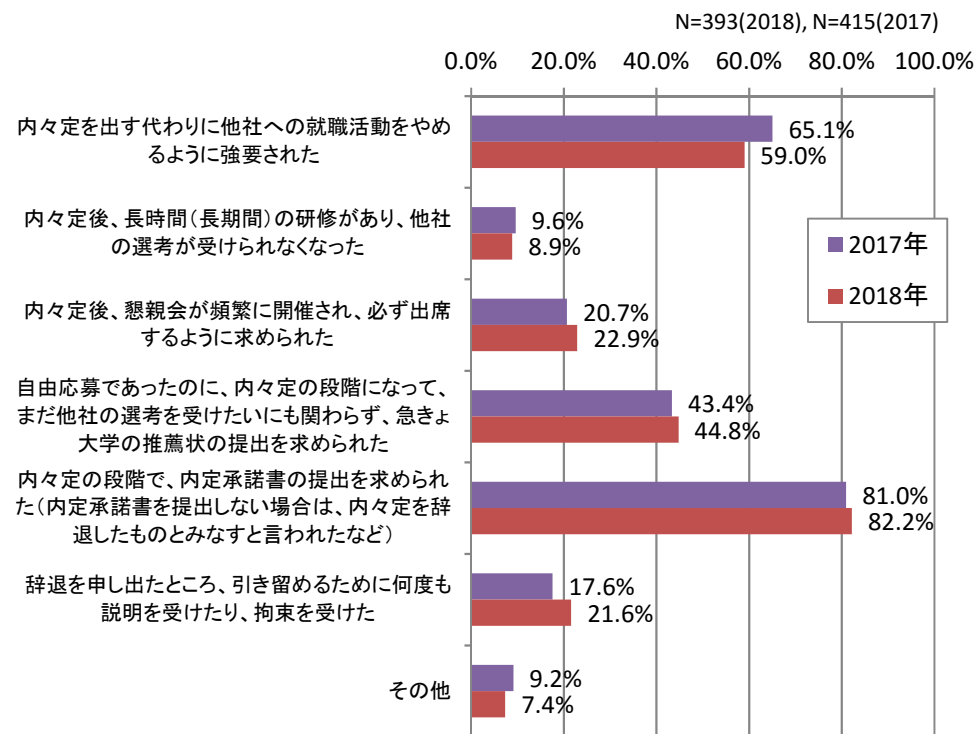


※3月1日から8月1日までの相談件数を回答
※相談を受けたことが「ある」と回答した393校に質問

<相談内容>

- 「内々定の段階で、内定承諾書を求められた」(82.2%)が最も多く、続いて、「内々定を出す代わりに他社への就職活動をやめるように強要された」(59.0%)、「自由応募であるのに、内々定段階で大学の推薦状を求められた」(44.8%)
- 昨年度と比べると「内々定を出す代わりに他社への就職活動をやめるように強要された」は▲6.1ポイントとなった。

【どのようなハラスメント的な行為について相談を受けましたか。】(複数回答)



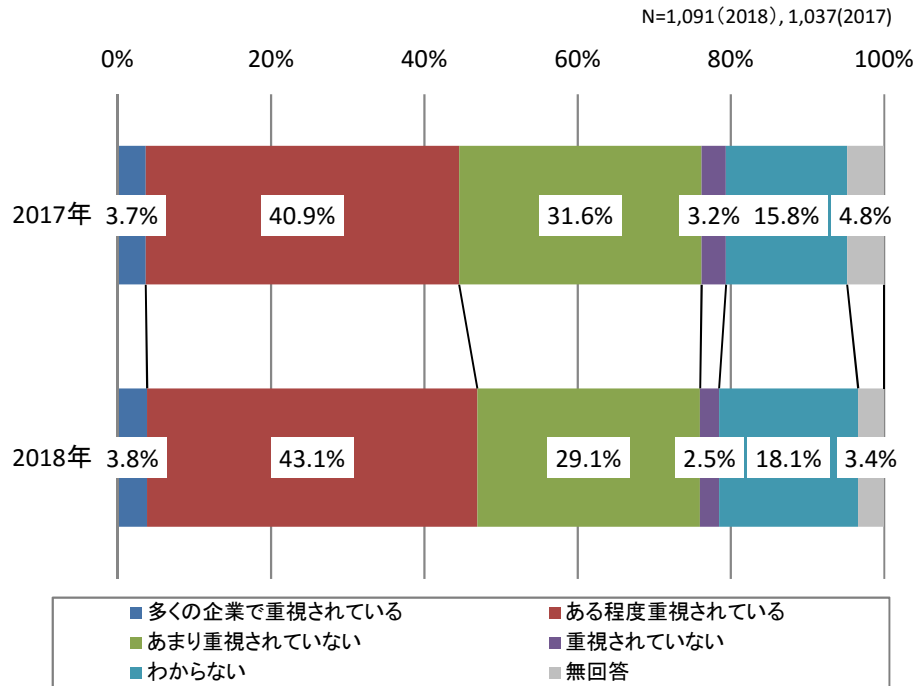
※相談を受けたことが「ある」と回答した393校に質問

採用選考活動における学生の評価

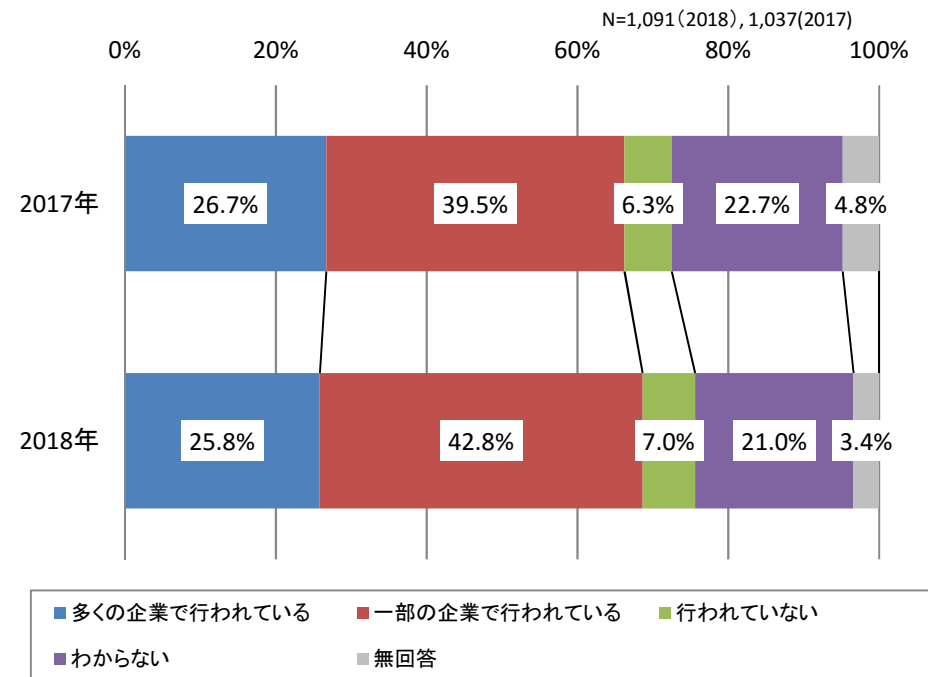
学業成果(成績や履修履歴等)が企業の採用選考活動で「重視されている」 46.9%(+2.3ポイント)
 学業成果を表す書類を活用した面接が「行われている」 68.6%(+2.4ポイント)

※「重視されている」とは「多くの企業で重視されている」、「ある程度重視されている」の合計
 ※「行われている」とは「多くの企業で行われている」、「一部の企業で行われている」の合計

【企業の採用選考活動において学生を評価する際に大学における学業成果(成績や履修履歴等)が重視されていると思いますか】(単一回答)



【学業成果を表す書類(例えば、成績証明書や履修履歴等)を活用した面接が行われていると思いますか】(単一回答)



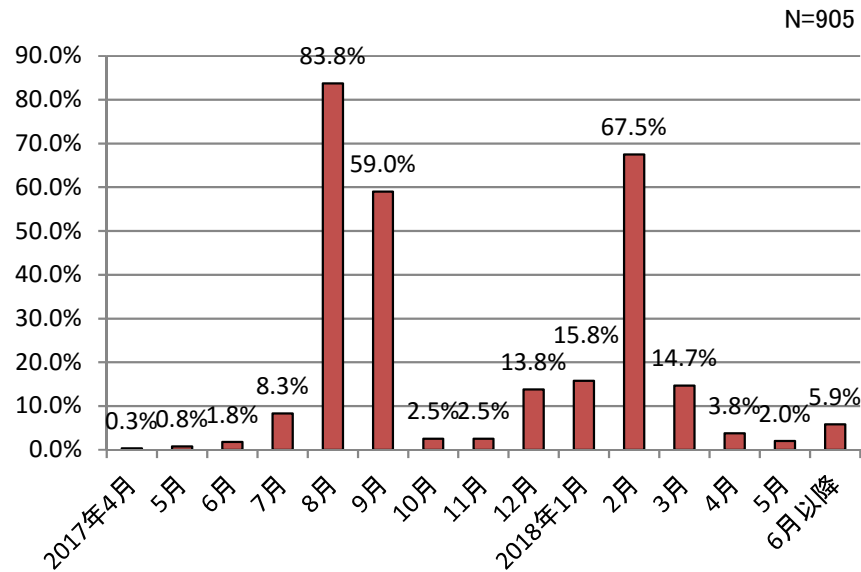
インターンシップについて

<インターンシップ参加時期>

- ・大学側の認識では、8月が最も多く、次いで2月が多い。

※企業が独自に学生を募集し実施するインターンシップについて回答。

【学生が企業のインターンシップに参加した時期はいつですか】
(複数回答)

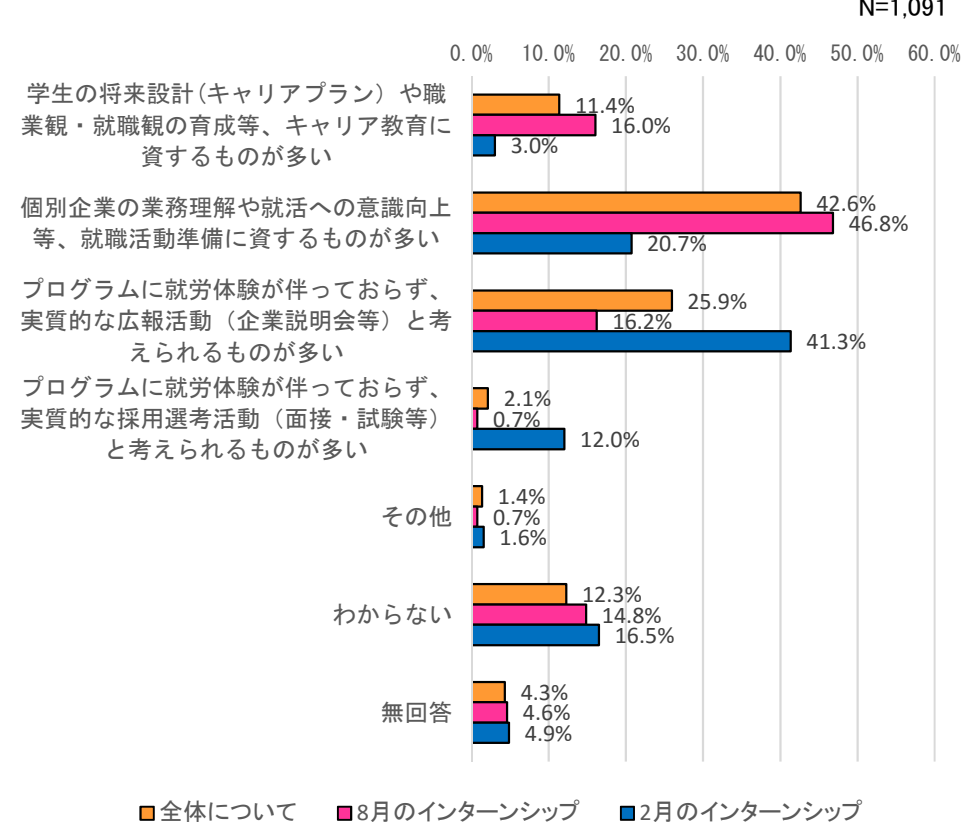


※3つまで回答。
※無回答186校を除外。

<インターンシップについての認識>

- ・8月に実施されるインターンシップについては就活準備に資するものが多いとの認識。(46.8%)
- ・2月に実施されるインターンシップについては、実質的な広報活動と考えられるものが多いとの認識。(41.3%)

【企業のインターンシップについてどのような認識をお持ちですか】
(単一回答)

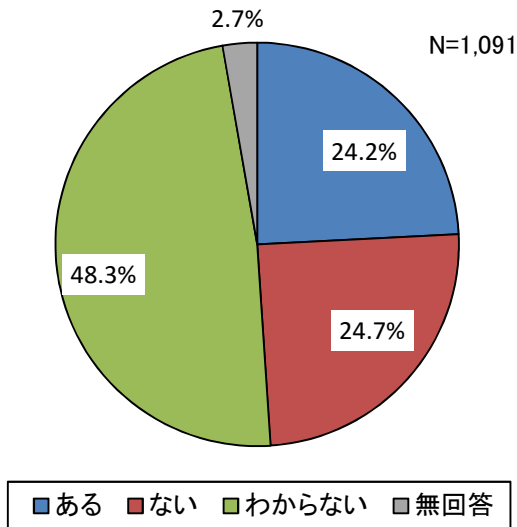


オリンピック・パラリンピックについて

<オリンピック・パラリンピック東京大会期間と就職活動時期が重なることの不安や課題>

ある	24.2%
ない	24.7%
わからない	48.3%
(無回答 2.7%)	

【2020年度の就職・採用活動はオリンピック・パラリンピック大会期間と就職・採用活動時期が重なりますが、就職活動にとって不安や課題と考えることはありますか。】(単一回答)



<不安や課題の内容>

- ・宿泊先の確保や交通機関の利用が困難となり、地方大学所属の学生が不利になる。
- ・就活スケジュールが変更されると報じられていること。
- ・企業説明会の会場不足

※不安や課題が「ある」と回答した大学等のうち、自由記述で回答の多かったもの。